

ミルクィーウィーンフィーダーの間違いやすい使い方

早期離乳の母豚ナースフィーダーとしてお馴染みのミルクィーウィーンフィーダーですが、メーカーの意図とは違う使い方をしている農場が意外と多いことがわかってきました。

そもそも母豚の授乳は約 1 時間に 1 回の割りで規則正しく行われるものです。しかし子豚に対する授乳は約 20 秒しか続きません。ミルクィーウィーンフィーダーもほぼ同じ考えのもと 1 時間に一回子豚が一斉に暖かいリキッドを競い合って食べるように作られました。

唯一違っていることといえば、1 時間の間に設定時間が 20 秒ではなく、管理者が自由に選べるという点です。皿に切り出されたリキッド

を食べるため、少しゆっくりと余裕を持って食べられるように設定されていますが、この設定を決める要素である豚の数や日令、餌の量との関係は管理者に大きくゆだねられていました。

管理者は良かれと思い、餌に不足がないようにと設定時間をあえて長くして安全策を取りますが、子豚が一斉に食べ切れない分は冷えてしまい、周りに散らかして無駄になることも多いのです。せつかくの設定時間も本当は何分回っていたのかはわかりません。特に子豚の数が少なく、その割に時間設定が長い場合は改めて設定時間を考えて見ましょう。

特設ナースルームで
早期離乳豚を管理するフィーダー



写真説明(左上:10 頭収容で 60 分設定、右:10 頭収容で 35 分設定)、いずれも長時間設定されているケース。皿には冷えた餌が残っていて、ホッパー内にも明らかに大量の餌が投入されている。

メーカーによれば、1分間で切り出されるリキッドフィードは250ml出るだそうです。餌の濃度にもよりますが、10%のリキッドを考えると、仮に20頭収容している小屋の場合、1時間に20分間作動して5.0L(250ml×20分)、24時間作動すれば120Lものリキッドフィードが切り出されるはずです。10%なら12kg、20%なら24kgの餌を一日で食べる計算になるものの、子豚の増体から考えるとせいぜい一日増体300gでしょうから明らかに餌が無駄になっていることが想像出来ます。つまり20頭収容としても20分設定では長すぎるくらいで、15分あるいは10分の設定で十分なのです。

後半(離乳舎移動時期)に近づくほど設定を飽食の60分にする人がいますが、20頭の収容ならほとんどが無駄です。これ以上更に餌が必要だと思われる場合は別のフィーダー(マキシパン)を投入して本格的にマッシュを食べさせるようにした方がよいでしょう(クリープやこれに相当する人工乳など)。ただしこの場合も餌のやり方(あふれるばかりに満たさない)と給水器(離乳舎で使っている同じタイプ)には気をつけてください。

ある農場では餌の使用量を丁寧に計測していたことから、ミルクの要求率が2~3にもなっている異常をデータで発見できました。離乳舎の要求率が1.4~1.5程度とすれば、人工乳だけを食べているこの時期ならそれ以下、おそらく1.2くらいのはずです。20頭で1日8kgの人工乳が消費される程度でも一日平均増体が300g以上は確実だからです。

こうした管理の見直しは、養豚景気に沸いている今こそチャレンジすべき時であり、しっかりと気を引き締めたいところです。

以下重々ご承知の管理のポイントも載せましたので、こちらも参考にしてください。温かいリキッドをみんなで一斉に食べさせる本来の使用法を今一度考え直してみてください。

基本管理のポイント

- 1、必ず初乳を十分に飲ませる(4日令以下は難しい、特に小さな子豚)
- 2、子豚を引き抜く作業(大きな豚がよい／一定体重)
 - ①一度に引き抜き群を作る(少しずつ混ぜてはいけない)
 - ②大きな群を作る(最低でも20頭以上を作る)
 - ③暖かい環境(特設ナースルームが最も良い)
- 3、小さい豚こそ、母豚に育てさせる(乳頭数、栄養+免疫)
- 4、ナース子豚もできれば通常離乳豚と混ぜない(衛生面)
- 5、移行免疫も異なるため衛生管理に特に注意を払う
 - 添加剤メニューも変えて成功している農場もある
 - (常在菌の対応については獣医師に相談する)

MWF トラブル防止の注意点

餌のやり方

- A) 餌のメニューは農場で色々だが、最初代用乳を溶かして皿に入れ、引きつけながら、ホッパーには人工乳に代用乳を適量混ぜるのが一般的
- B) 代用乳ばかり使うとコストアップになるので早めに人工乳へ移行

機械のセッティング

- A) 豚を最低でも大きいものから 20 頭で集め、設定 10 分を基本とする
- B) ブザーで呼び寄せナースする状況を観察して時間が適切かどうかを見る
- C) 1 時間に実際に何分間餌が切り出されるか、全頭と一緒に寝る様子も確認すると皿に理解が深まる

その他のトラブル

- A) 最大の故障は、オーガーのつまり(水の出方を絞らない)
- B) 使用電源の間違いでモーターに負荷がかかる
水圧不足と練り餌に執着する管理者の誤解、勘違い

(MWF:ミルキーウィーンフィーダーの略)